

(議長)

日程第14、一般質問を行います。

今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり9名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可致します。

(議長)

まず、室井議員の発言を許可致します。

「室井議員」

議長。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

えーと、2問用意していますので、最初1問から質問させていただきます。

まず第1問、えー財政課題とですね、持続可能なまちづくりについて質問させていただきます。

江差町は、平成9年4月まで起債の約70%まで地方交付税で還元される、財源上有利と思われる過疎地域の指定を受けることなく、他町には例の少ない都市機能の整備に努めてこられました。

当時の首長、管理職の江差町を経営する心意気、そういうものに私は、感銘を受けておりますが、町長、教育長、今あなた方はどう思ってますか。答弁願いたいと思います。

次に、もう少し有利な、有利なですね起債も使えない。ふるさと納税も無かった時、有るのはですね、江差町を良くして後世に残したいと言う、そういう心意気の高さがあったのではないかと思います。

去る12月17日の全員協議会の席上で、私は質疑させて貰いましたが、昭和62年の文化会館の建設から平成6年の、までの6年間で、野球場、運動公園、それと都市計画街路の整備、公営住宅の建て替え、教育施設の建て替えなど、更には港湾整備事業への負担金の拠出、また下水道事業への繰出金など、私の概算試算では、この間、約90億円が拠出されております。

これからですね、これらの施設30年以上経過してます。スクラップアンドビルドを検討する時期になると思いますが、私はですね、ただ従来のような、そういう長寿命化計画でなくですね、今回たまたま道の駅構想でですね、新しく利用されるDBO方式、こういう方ですね意見を聞いたり、変わったですね、やり方を検討して予算を獲得して来るって、予算を取って来るって言う事がですね、やっぱり町の最高責任者のですね、責任だと私は思いますよ。

あれも駄目これも駄目、お金がないから駄目だったらですね、皆さんの部下、やる気ありませんよ。部下をですね、やる気を持たせるような、そういう意気込みを頑張っ
て欲しいと思います。

最初に第1問をこれで終わります。決意を聞いて、それから第2問に行きたいと思
います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員の1問目、財政課題と持続可能なまちづくりについてのご質問にお答え致
します。

議員おっしゃる通り、今日の江差町の都市基盤が備わった歴史を振り返ってみます
と、昭和40年代には新国道の整備や海岸線に面した中歌町ふ頭用地の造成や、津花
海岸埋立事業が行われるとともに、町道の舗装化や都市計画事業としての公園整備、
街路整備が進められました。昭和50年代には檜山支庁の所在地であるとともに、檜
山広域行政圏の中心町であり、政治経済機能など、あらゆる分野にわたる管内的な拠
点として新たな宅地造成や道道拡幅整備、近代的なショッピング街を形成する中央商
店街改造事業などが実施されました。平成に入りますと、町の近代化等都市インフラ
整備が加速し、駅まち事業を始め、マリーナ、文化会館、役場庁舎、運動公園など大
型施設が建設されていき現在の都市基盤が形成されました。こうした歴史は町が道内
でも早くから開けた街として、多くの歴史文化遺産の活用を展望した観光のまちへの
政策の転換、産業構造的にはサービス業への転換に合わせた近代化等の都市改造が必
要とされる時期と重なっていたことが背景にありました。

それらの事業推進に携わってこられた当時の町長、職員の並々ならぬご尽力には敬
意を表するところでございます。

しかしながら、バブル経済の崩壊や国による三位一体改革の影響、少子高齢化によ
る地域経済の停滞など、町を取り巻く様々な要因が絡み合う中、これらの都市整備に
伴う公債費の増嵩が重なって、町が早期健全化団体へ転落したこともまた事実であり、
非常に重く受け止めているところでございます。

その結果、財政健全化計画を柱とする抜本的な財政の立て直しによって住民の皆様
のご負担や、全職員の痛みが伴う中で厳しい状況を克服し、乗り越え現在に至る長期
的な安定に繋がってこられたのも、ものと認識しています。

また、このように先人から引き継がれた都市基盤につきましては、将来において、
洋上風力を初めとした地域振興策に活用、有効活用できる貴重な資源になりうるもの

と考えています。

さて、ご質問の道の駅事業のＤＢＯ方式を参考とした長寿命化改修についてというご質問でございますが、議員ご承知の通り、町は３０年以上経過した老朽化が進む公共建築物を数多く所有しております。健全な財政状況を維持しながら、こうした建築物を持続的に保持していくためには、改修更新にかかる費用を平準化させるとともに適時の長寿命化改修に取り組む一方、需要に応じて、建て替えや複合化広域化あるいは統廃合を進めていく必要があります。長寿命化改修につきましては一定程度の財政負担が生じることとなりますので、毎年度の予算編成において、各種政策とともに、とも調整を図り、緊急性優先度を勘案した上で、対象施設やその対応を検討して参りたいと考えております。

その際、議員ご指摘の通り、民間活力の導入と施設の長寿命化の効果的連携につきましても、民間企業や建設協会等との情報交換・意見交換を通じながら、土地の有効活用も含めて、手法の検討を加えていければと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

はい。えーと再質問、簡潔に行きたいと思います。

町長ね、これからね、行政だけで何でもやるって時代もう終わったんだよ、ね。民間だってさ、頑張らなきゃならないんだよ。だからそういうね、心意気を持ったところのは必ずある、ね。そこをね、探せるか探せないか、ね。やっぱこれは町長、ちゃんと副町長、ね。座っている管理職、皆さんもね。気持ちで一つだ、ね。

町はそれで良くなるかならないか。そう言う事をね、しっかりね、認識して貰いたい。

それと副町長、俺、これ何回も質問している。民間の力を借りなさい、民間の知恵を借りなさいって。何か借りてやろうとしたことありますか。それだけ簡潔。

(議長)

副町長。

「副町長」

はい。あの一簡潔に答えますと、まさしくかもめ島の今の拠点施設整備もＤＢＯを入れるのも、民間の知恵を借りないと出来ない拠点と言う事でございます。

えー加えて少し申し述べたいと思いますが、えーこれまでも色んなインフラ整備をしてきましたけども、このまま、あー人口が減っていく、少子化になっていく中で、農業、漁業、商業を含めて、今現在は、まあ多分風力発電の工事関係者が旅館等に入

っておりますけども、このまま一部の観光客を待ってては、江差町の成長は無いと、このように考えています。そういう意味で、道の駅の新たな拠点を整備して、賑わいを持って江差町の成長をする、そういう拠点にすると、そういう覚悟で今おります。以上です。はい。

「室井議員」

1 問目。いいですよ。

(議長)

次 2 問目、お願い致します。

「室井議員」

えーと、ごめんなさい 2 問目ちょっと質問させていただきます。えーと通告してます。江差町固有の地域資源の整備保存と全体構想の策定について。

私は過去の議会の中でも、国道を含めたあの周辺一帯の整備構想を作り、歴史宝庫がかもめ島を中心に整備計画案を作って、主体、具体的な例を示し、提案を行ってきました。作るべきと考え、行ってきました。

しかし、私の大局的な提案に対、対しては、どこ吹く風と思われるような、そういう雰囲気、今更、何もなされていないのではないかと私は感じます。

もし、私の質問で間違っているとこあったら、逆にこういう、こういうふうやってきたと、質問答弁して質問逆、逆質問しても結構です。私はですね、助役さん聞いてね。副町長さん。私は一時的な思いつきや、ですよ、ね。重箱の隅をつつくような、そういう細い質問にですよ、意識的に避けてきたんです。やっぱり江差を良くしたい。困難あるのは当たり前なんです。お金があつてね、何でもあるんだらなんぼでも出来ますよ。皆さんでなくても出来ますよ。係長だって全部やりますよ。ね、そうじゃなくて、そういう中を乗り越えてね、やっぱりみんな来たんです。それで実直なこの件に関してはですね、私提案してますので、副町長わかりますね。なんで今まで議会で私がこういうふうにするべきじゃないか、した方がいいんじゃないかと言う事を提案してきました。これについてですね、実直に答弁を願いたいと思います。

何故私は今道の駅の整備が必要であるのか、今ですね、これが既存ベースで核としてですね、あのかもめ島周辺と、あの周辺ね、あの下町の交差点の周辺を歴町と連動させて、どう町のね、活性化して行くか。これがうまく出来るんですよ、私は本当に海のある道の駅、歴史のあるかもめ島、これまで連携することによってですね、素晴らしいものが出来ると私は考えて提案してきました。だからあえて、あえてですよ、あーだこーだって言わない。ちゃんと、もしね、あーだこーだって言えば、あなた方はいいけど課長方が出来なくなる。課長方が頑張ってやって欲しいから、あまり細かい事言わないで、私は努めてきたんですけども、その見解について求めたいと思います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

室井委員からの2問目、江差町固有の地域資源の整備保存と全体構想の策定についてのご質問にお答えを致します。

江差町では、地方創生を推進していく上で、江差町が有する歴史文化伝統等の地域資源と新たな魅力を融合し、古くて新しい町江差を代表する観光の拠点化として、まちのシンボルであるかもめ島の周辺を整備する北の江の島構想をたたき台として、平成30年3月に策定を致しました。

江差町議会におきましても、平成29年第2回定例会におきまして、かもめ島周辺の利用計画に関する事務調査が発議され、平成30年第2回定例会におきましては、開陽丸周辺、南ふ頭、かもめ島入口、かもめ島の四つの拠点地区についての課題を示しながら、江差町最大の魅力ある中核地地区としての全体計画の早期策定を求める意見を付して、調査報告がなされております。

その後、町では、令和4年3月に北の江の島拠点施設整備基本構想を策定し、かもめ島エリア、開陽丸エリア、港湾エリア、いにしえ街道エリアの4つのエリアの整備のあり方を整理しつつ、産業の振興や交流人口の拡大、雇用の創出といった効果が期待できる道の駅機能を付加した北の江の島拠点施設の整備方針を示したところでございます。このように、室井議員のご質問にもありますとおり、北の島構想は単に道の駅だけを整備する構想ではございません。かもめ島周辺の活性化の構想の中に、道の駅を拠点施設として位置づけているものであり、拠点施設としての機能の充実を図りながら、江差町、江差観光の玄関口として、そこからかもめ島、開陽丸、上町やいにしえ街道などに人が周遊する仕組みを作っていくことが必要です。道の駅の整備で完了をすると言う事ではなく、かもめ島の魅力の向上、開陽丸の改修、あるいは日本遺産の取り組みも含め、ハードソフト両面でトータルとして進めていきたいと考えております。

周辺で全体の整備構想を策定し、上位団体や関係団体に要請行動すべきとのご質問でありますが、洋上風力発電事業に伴い、港湾エリアの利活用について見直しも必要となります。道の駅の整備と並行しながら、改めて各エリアの整備方針等を整理して参りたいと考えております。

議員の皆様のお力添えを賜りながら進めて参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

えーと、町長ね、私もそう思ってた、ね。道の駅だけ作るのであればですよ、何もね、北の江の島なんていうああいうでっかい看板いらんって。いらん。ああいうような看板しよった以上はね、それなりにね、かもめ島でいいんじゃないですか。道の駅かもめ島で。私はそれが最高だと思ってますよ。

それで私の考え、今言います。町長ね、これからの整備は、そんなにお金かかる整備じゃない。ね、要はきちっと歴史認識と小規模な、ね、整備をしてですね、ちゃんと、それを保存していくと、歴史を保存していくってことが大事だって、そこを忘れては駄目だと思いますよ。何もね、もう立派なものだけ、もう道の駅はあくまで道の駅で、これは頑張ってやって貰いたい。これはよその町もみんなですね、注目してますよ。私の方には、何やってんだって声まであります。はっきり言ってありますよ。だから私も負けたくない。私は町の職員じゃないけど、議員です。江差は負けたくないんだ、そういう気持ちでみんな頑張らないとならないと思いますよ。かもめ島はね、もうあのまま、今当分の間、整備をしない、そういう考えで必要だと思います。そしてあまりにもね、ちょっと危ないところは保存、修復していくってことでいいんじゃないかと思います。

ちょっと一つだけ、私教育委員会、うーんと社会教育だな、一つだけ聞きますけども、私かもめ島にですね、調査に行きました。ずっと歩いて。その時ね、岩場に行ったら穴空いて、あれ、穴空いて、して魚釣りしてたんですよ。それでお兄さんが、やんやこの穴危ないから穴埋めてくれないかって言ったんですよ。私は返事して、わかりましたって帰ってきたんですけども、あれはまさにかもめ島を象徴する非常に大切な穴ですよ。要するに北前船が来たときに、あれに、ね、五勝手とかああいうどっから檣切って来て埋めて、ね、係船に停泊させたそういう大事な場所なんです。そういう史跡がある残ってるんですよ、まだ。きちっと保存して貰いたいなと、私はそう思いますけど、今日は答弁する人いない。いないからこっちでいいよ、ね。答弁して下さい。どうぞ。

(議長)

副町長。

「副町長」

はい、えーと、私から北前船の云わば係船柱の後、かもめ島には20数ヶ所あります。あの、加えて今、室井議員から質問があったんで、江差町の文化財指定を受けて

いると言う事が一つです。ですから、ま、釣り客なのかどうかあれですけども、危ないっていうふうに言って、穴を単に、単純に埋めると言う事については基本的には難しいだろうというふうに思ってます。

えーただし、また、あー一部には、ね、根っこが残ってるっていうか、根が残ってる係船柱跡もあります。そういったところを含めて、室井議員は多分、お話を伝えたいのは、拠点があるいわば管理棟の今周辺は、かもめ島と一体となった拠点であると、こう言う事で、かもめ島の魅力の一つに、北前船の文化、繁栄が息づいたこの係船柱の歴史をきちっと保存だけではなくて伝える、まあ分って貰って、ああそうなのかっていったところの部分の魅力づけを、きちっと考えるとこう言う事だというふうに思います。

えー私から言えるのは、えーちょっとくどいんですが、普通は道の駅国道沿いにあるのが普通であります、開発の見解。でもあれだけ港湾道路に引っ込んだ場所に今道の駅を整備するのはそうそう無いというのが一つ。これに加えて、えー周辺のエリアにかもめ島っていう江差のシンボルがあって、また北前船の繁栄が息づいた、いわば停泊した係船柱もあるとこういったところのエリアをですね、存分に生かした中で、道の駅、それから海の駅の指定もしてございまして、そういったものも諸々の部分をトータルとしたエリアにして行きたいと、こう言う事で保存整備については、ちょっと知見もお借りしながら、そんなにお金をかけないで、どうやって広げ、広めるかという事だと思いますんで、十分心して検討していきます。以上です。はい。

(議長)

以上で、室井議員の一般質問を終わります。

えー13時まで休憩致します。

休憩 11 : 57